JSCA九州メール版

発行：日本建築構造技術者協会九州支部
TEL 092-406-7204 / FAX 092-406-7214
Web Site：http://jscakyushu.jp/
E－mail：info@jscakyushu-.jp

平成３０年度　通常総会報告

ＪＳＣＡ九州支部「平成３０年度通常総会」が５月２５日、福岡市中央区のタカクラホテル福岡において開催されました。

司会の木村正人様による定数確認の後、原支部長挨拶で開会しました。

議長に中野良博様が選出され、平成 29 年度の事業報告・収支報告・監査報告、平成 30 年度新組織紹介、事業計画・支部予算について原案通り承認されました。

議長退任後、各地区会幹事の報告がありました。

詳しくは JSCA 九州 HP 上の議事録をご覧下さい。

http://jscakyushu.jp/data_note/soukai-H30-M

原支部長

中野議長

JSCA 九州構造デザイン発表会 2018　報告

今年も５回目となる「JSCA 九州構造デザイン発表会 2018」が行われました。JSCA 中部・関西・中国・四国支部からのゲストも招き、以下７名の発表者による発表会となりました。

コメンテーター：尾宮洋一（JSCA 九州支部顧問）、上永瀬守（鹿児島地区会幹事）
ゲスト：森高英夫（JSCA 会長）、奥野親正（JSCA 構造デザイン委員会委員長）
原健一郎（JSCA 構造デザイン発表会実行 WG 委員）、盛本智夫（中部支部）
森保直也（中国支部）、戸田友一（四国支部）
進行役：今林光秀、重松正幸、新井浩晃、安達亮平

①「安全性と更新性を高めた博物館」
- 大野城心のふるさと館 -　伊藤 淳（久米設計 九州支社）

②「屋上 TMD 設置による居ながら制振改修」
- 福岡フジランドビル -　山本 能之（鹿島建設 九州支店）

③「防災拠点の機能維持を実現するための制振構造」
- 東京消防庁武蔵野消防署吉祥寺出張庁舎 -　山内 祥郎（飯島建築事務所）

④「透明感豊かな風景に溶け込む薄肉立体架構～BIM による究極の納まりへの挑戦～」
- 新健康協会福岡　万教帰一館 -　小関 誠子（竹中工務店 九州支店）

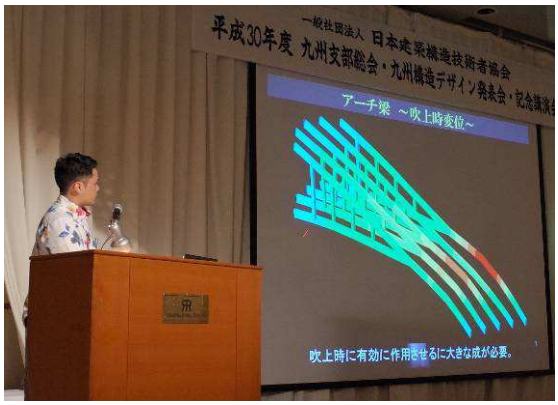
⑤「アスペクト比 6 を有する塔状中間層免震構造」
- 成田国際空港新ランプコントロールタワー -　和田 大典（梓設計 九州支社）

⑥「木屋根を取り入れた空間」
- ジョイチャペル新築工事 -　久場 誠矢（国建）

⑦「構造デザイン 七転び八起き」
- 春日総合スポーツセンター -　原 健一郎（石本建築事務所）

・総　括（今林副支部長）

今回はゲストの原氏が急遽７番目の発表者として発表されるなど、盛況な発表会となりました。ゲスト・会場からもさまざまな質問・意見が寄せられ、中身の濃い発表＋質疑応答の時間となりました。また発表会終了後の懇親会でもパネルを用いて各発表者のインタビューが行われ、より交流が深まる機会となりました。来年以降も皆様の発表をお待ちしています。



記念講演会

「ＪＳＣＡの活動を中心とした話題」

－建築構造設計者・技術者の役割と責任－

一般社団法人　日本建築構造技術者協会

森高　英夫　会長

今年の記念講演は、当協会である一般社団法人日本建築構造技術者協会の森高英夫会長に「JSCA の活動を中心とした話題」と題しまして、ご講演していただきました。

森高会長は、1977 年に神戸大学大学院工学研究科を修了後、株式会社安井建築設計事務所にご入社され、現在は、同社の執行役員、および構造部総括を務められています。また、業務の傍ら、プレストレスコンクリートに関する論文も執筆されており、1999 年に「プレストレスコンクリート有開口梁の実用化研究とその応用（開発）」でＪＳＣＡ賞、2000 年に社団法人プレストレスコンクリート技術協会よりＰＣ技術協会賞を受賞されております。本ご講演では、JSCA の沿革や体制・活動をはじめ、建築構造設計者・技術者の役割と責任について豊富な内容をご講演していただきました。紙面にてダイジェストをお読み下さい（九州支部広報委員会でダイジェストを書いていますので、会長のご講演内容と多少異なるところもあるかと思いますが、ご了承ください）。

■ＪＳＣＡの沿革

・1981 年に構造家懇談会を設立したのが現在のＪＳＣＡの原点。
・1989 年に建設省住宅局所管の公益法人（社団法人日本建築構造技術者協会）として認可された。
・2012 年に公益法人制度改革関連法の施行に伴い、内閣府の認可を受け、一般社団法人に移行。
・2019 年 7 月に法人化 30 周年を迎える。法人化 30 周年記念事業準備委員会を立ちあげ活動開始した。

■ＪＳＣＡ本部の体制・組織

・2018 年 4 月現在、会員数は 4328 名（正会員 3846 名）
・常設委員会 12、特別委員会 7

・企画会務委員会は、中期ロードマップ策定のための資料作成、首都直下地震等に備えた震災対応（震災対応マニュアル 2017）、本部主催講習会の ICT の活用促進、構造設計一級建築士修了考査解答集の作成、企業と学生のインターシップの仲立ちの活動を行っている。
・会員委員会は会員の入退会に対する審査および理事会への報告、JSCA 功労賞の推薦、学生会員・若手会員の増強に向けた取り組み、賛助会員サービス向上に向けた取り組みを行っている。
・広報委員会は、「ホームページ WG」、「出前授業 WG」、「パンフレット WG」、学生会員増強 WG」の 4 つの WG を設置し活動。学生向け会員勧誘パンフレットを作っている。
・事業委員会は、出版活動や見学会の活動を行っている。
・法制委員会は、構造審査その他に関するアンケート調査、ピアレビュー制度に関する情報収集、「構造設計に関わる建築基準法等の問題点とその法制度としてのあるべき姿に関する見解」の作成を行っている。

・業務委員会は、構造設計者の業務支援、構造設計賠償責任保険（JSCA 保険）の普及活動、耐震補強設計委託業務契約書の整備、業務報酬規準の改定を行っている。
・編集委員会は会誌「Structure」を、年 4 回発刊を目的に毎月第 3 水曜日に開催している。
・構造レビュー委員会は、既存・新築建築物構造レビューを行っている。
・国際委員会には、①日中部会、②日米部会、③SEWC 部会、④国際緊急援助隊部会が設置されている。SEWC 部会では 2017 年に SEWC-Japan（会長：森高 JSCA 会長、副会長：和田 JSSI 会長）を立ちあげた。今後は SEWC-Worldwide の構成員として参加。
・構造デザイン委員会では発表会の優れた作品について若手構造設計者を交えて勉強会を開催している。今年の発表会は名古屋で開催予定。
・JSCA 賞委員会では、JSCA 賞の選考（書類および現地審査を実施）を行う。
・技術委員会には 13 の各種部会が設置されている。
・その他に耐震診断・補強判定委員会や建築構造士制度委員会、地球環境問題委員会などが設置されている。

・建築構造分野の設計・監理・行政・研究技術開発等に関わる方は、本協会にぜひ加入していただき、委員会活動・職能研鑽プログラムへの参加等を通して多くの構造専門家と語り合う機会を持ち、スキルアップを図っていただければと思います。

■ＪＳＣＡ事業概要

・会員の増強と次世代の構造設計者の育成として、リーフレットの作成を行っている。また、構造デザイン発表会や若手向け「実務者研修」、中堅向け「スキルアップセミナー」を開催している。
・性能設計の普及に向けた活動として、ＪＳＣＡ性能設計説明書の試行運用を行っている。3 月末に国土交通省から発表された「防災拠点等となる建築物に係わる機能継続ガイドライン」でも参考となる指針として紹介された。また、非構造部材の構造安全性確保に向けた活動やパンフレット「安心できる建物を作るために」の見直しと社会に向かっての広報活動の強化を行っている。
・ＪＳＣＡ建築構造士の位置づけが近年曖昧になってきているかもしれないが、構造士の将来像を考えていきたい。
・木造設計の技術の向上として、特に中大規模木造建築物の設計について構造設計支援をしていきたい。
・既存建築物の安全・安心の確保について今後とも継続していく。判定業務を含めた支援をしていきたい。

■ＪＳＣＡ建築構造士

・社会に推薦しうる構造設計技術者として、ＪＳＣＡの責任において認定している資格である。
・優れた構造設計技術者として資格認定試験を行い、面接等で技量・資質共に備えていることを確認している。
・構造設計一級建築士である事を受験資格要件としている。

■豊洲市場問題で思ったこと、今考えていること・・・

・2017.9～市場問題プロジェクトチームの専門委員に就任した。
・東京都からＪＳＣＡに対して、豊洲市場の施設建物の構造安全性、とりわけ耐震安全性について第三者的な立場で所見を述べることが出来る建築構造の専門家をＰＴに派遣するよう強い要請があった。
・豊洲市場の監理事務所において設計資料（計画通知完了後の構造計算書、設計図および質疑回答書）を調査した。調査にあたっては、資料が膨大であるため、JSCAメンバー3 名の協力を得た。
・築地市場の建物施設の現状について調査した。屋根・壁等の仕上げ材および什器・設備機器等について、地震被害軽減のための対策が必要ではないかという印象を持った。特に約 10 年前に実施された耐震診断により Is＝0.6 を満足するように、建物構造体の耐震補強が講じられている一方で、所要の耐震補強工事が未了の建物もある。
・「築地市場の地震に対する脆弱性・BCP 欠如」をメディアが取材する公開の場で 3 回指摘したが、全く報道されなかった。何故？
・構造設計者・技術者の役割・責任等について、社会（特にメディア）の理解が進んでいない。
・建築構造の専門家として、社会に対して専門的な話を正しく理解されるような説明技量が必要。
・特に耐震上の話題については、社会に余計な不安を与えるのではなく、どのように対応すれば安心・安全を確保できるかを具体的に示すべき。
・構造設計者として、しっかりした設計思想・哲学を持つこと。
・専門的な構造分野だけでなく、幅広い知識と正しい見識を持つこと。
・ＪＳＣＡを中心に構造設計者・技術者の役割・責任をこれからも強く社会に発信していきたい。
・構造設計者・技術者は孤立してはいけない。ＪＳＣＡの中で相互交流を深めて、互いに切磋琢磨し、職能の社会的認知を高めていきましょう。

超満員の記念講演風景

懇親会報告

総会、九州構造デザイン発表会および記念講演会終了後に、多数の正会員、賛助会員および
ご来賓の皆様が集い、福田顕議さん（広報委員会委員長）の司会で懇親会は盛大に催されました。

JSCA 九州　支部長
原英基　挨拶

来賓（一社）福岡県建築士事務所協会会長
岩本茂美様　来賓代表ご挨拶

来賓（一社）日本建築構造技術者協会会長
森高英夫様　来賓代表ご挨拶

来賓（公社）福岡県建築士会福岡地域会代表
柴田成文様　乾杯ご発声

来賓（公社）日本建築家協会九州支部支部長
川津悠嗣様　万歳三唱ご発声

編集後記　　今年度の総会は、写真撮影やメール版記事作成のほか、議事録書記、懇親会の司会などの大役を仰せつかりました。初めての役割で、至らなかった点も多かったかと思いますが、非常に良い経験をさせていただきました。この経験を忘れず、来年も広報委員会として微力ながら総会・構造デザイン発表会・懇親会を盛り上げていければと思います。
（JSCA 九州支部広報委員会　福田・春元・中島　記）